2022 年度 福祉助成金（研究助成）完了報告書　提出用

公益財団法人 橋本財団
　理事長 橋本 俊明 様

2022 年 11 月 30 日

ふりがな	いまばりめいとくたんきだいがく			
大学 研究機関名	今治明徳短期大学			
代表者名	役職名	講師	氏名	松田文春
連絡先	住所	愛媛県今治市矢田甲 688 番地		
	TEL	0898-22-7279		
	E-mail	f-matsuda@meitan.ac.jp		
	URL			
助成額	1600,000 円			
研究要旨	本研究の目的は、福祉と教育を連携させた実践的取り組みを通じ、社会貢献を意識し自己有用感を高めるための教育プログラムを開発することである。具体的には、「①総合的な学習の時間「未来航路プロジェクト」を利用し、福祉に応用できる自助具の開発研究と製作に関する体験的活動　②ロボットの製作やプログラミングに興味をもっている中学生を中心としたゼミ形式の自主学習会の開催　③生徒の活動に対する外部評価のための各種の研究会やコンテストへの参加の奨励」に取り組んだ。結果、「３D プリンタを利用した自助具の制作」、「Raspberry PI・Python 3 を使った電子工学の勉強会」、「データサイエンティスト養成講座」と生徒の興味や関心に合わせた活動を実践できた。これらの活動参加者が中心となり生徒の自由な発言の場「SOZAN Liberal Arts」に変化した。さらに、ビジネスコンテストや中高生のための学会発表等にも参加し高い評価を得るようになってきた。以上のことから、本実践的研究は、社会貢献への意識づけや自己有用感を高めることができ、中高生のキャリア教育や進路選択にも繋がる有効な教育プログラムであった。			
研究の目的	本研究は、福祉と教育を連携させた実践的取り組みを通じ、社会貢献を意識し自己有用感を高めるための教育プログラムの開発を目的とした。 ①岡山操山中学校の総合的な学習の時間「未来航路プロジェクト（課題研究）」で、福祉に応用できる自助具の開発研究と製作に関する体験的活動を支援することを目的に、松田が「共生社会に向けて」全校生徒を対象に人権教育講演会を行い、共生社会・福祉に関する研究をテーマとした生徒に対し、研究の方向性についてアドバイスした。 ②ロボットの製作やプログラミングに興味をもっている中学生を中心としたゼミ形式の自主学習会の開催することで研究の質や開発のスキルの向上を目指し、理科室にマイコンボード（Raspberry Pi)や電気回路実験キットを準備し、希望者を募り勉強会を開催した。これにより生徒の自主的な学習意欲の向上を計った。 ③生徒の活動に対する外部評価のための各種の研究会やコンテストへの参加を奨励し、自分の研究を多くの人に広げることで、社会貢献の意識づけを計った。生徒はコンテストに積極的に参加するようになり、ディスカッションをすることで自己有用感を高めることができると考えた。			
研究の 実施方法	①総合的な学習の時間「未来航路プロジェクト」を利用し、福祉に応用できる自助具の開発研究と製作に関する体験的活動 2021 年：教育や福祉をキーワードに探究的研究に関して指導を行った。コロナ禍のため活動に規制が多い中、生徒たちは、子どもの心理発達、子どもの運動不足解消のゲームやリハビリ器具の制作などに取り組んだ。2022 年には、３D プリンタを用い、障害者のための自助具を試作した。 ②ロボットの製作やプログラミングに興味をもっている中学生を中心としたゼミ形式の自主学習会の開催 2021 年に理科室に「Raspberry Pi ・Python 3」を導入した。ここに集まる生徒が指導者となり、希望者を対象に勉強会を学期に３回程度行った。さらに生徒からの要望を受け「データサイエンティスト養成講座」、「SOZAN Liberal Art」と新たな活動を計画し実践させた。 ③生徒の活動に対する外部評価のための各種の研究会やコンテストへの参加の奨励 社会貢献や研究を広げる経験、専門家とのディスカッションを通して自己有用感を高めたいとし発表会やコンテストへの参加を呼びかけた。			

研究の成果	実践的研究活動を通して、生徒たちには多くの体験をさせることができた。「勉強会」は学期に３回程度行ったが、毎回 20 名程度の参加があり、下校時間まで参加者みんなで活動した。期待通りにプログラムが動作すると生徒から歓声が上がり、指導した生徒も参加した生徒も達成感を得ることができた。この体験をした生徒から「Ted Talk」のような自由な発言や交流ができる活動がしたいと要望があり、生徒たちだけで活動することを条件に「SOZAN Liberal Arts」を設定した。生徒たちは、エントリーシートを作成し、プレゼンテーションを考え、記録を残すなどの全ての活動を自主的に行った。３回の発表会で延べ 24 名以上の発表者・120 名以上の聴衆者があった。「活動を続けたい。発表が楽しかった。みんなに褒めてもらって嬉しかった」と良い感想がたくさん見られた。また、高校に進学した生徒たちの中には「福祉・自助具の開発」をテーマにビジネスコンテストや発表会に積極的に参加する生徒も現れ将来の進路選択を考えるようになったと話すようになった。
研究の成果の公表状況 今後の公表予定について	①発表 ・「ヴィゴツキーと教育実践～ ディスカッションから探究集団の育成へ ～」ヴィゴツキー学協会招待発表 塩飽修身 （神戸：2022 年 11 月 10 日） ・電子工学をけん引しようとする学習グループの育成―Raspberry Pi を用いたロホ□ット開発を通して―福永義行 松田文春 塩飽修身（日本学校教育実践学会 第 26 回研究発表会） ②論文 塩飽修身 松田文春 『社会への貢献を実感する生徒を育てるための教育実践 ： 中学生の自己有用感を刺激するロホ□ット研究ク□ルーフ□の育成を通して』日本教育実践方法学会教育実践方法学研究 6(1), 45-57, 2021 ③予定 日本学校教育実践学会 第 27 回研究発表大会（2022 年 12 月 4 日予定） ④生徒発表 橋本財団主催 生徒発表会 2021 年 3 月 24 日 生徒 6 名 6 件発表（社会福祉法人敬友会研修室） 2022 年 3 月 23 日 生徒 10 人 6 件オンライン発表(岡山操山中学校) サイエンスキャッスル研究発表会 「ダヴィンチ mini を使用した片手コントローラの作成」優秀賞 岡山ガス 『ビジネスプランコンテスト 2022』 「世界中に 3D プリンタで作成した自助具を提供する」ファイナリスト

＊2022 年 11 月 30 日締切です。必要事項を入力のうえ Word ファイルをメールにてご提出ください。